

23 ローコード・ノーコードツールにより、順次アプリを内製し、全庁的な電子決裁も実現【福島県昭和村】



- 業務改善に向け、ローコード・ノーコードツールの活用をスモールスタート
- 庁内で利用するアプリの内製からスタートし、効果を確認しつつ、迅速に全庁展開

事業の概要

- 業務量調査を経て、定型的なものなど紙ベースの処理により業務負荷が高いものについて、改善の必要性を認識し、ローコード・ノーコードツールを活用した業務効率化に着手。
- まずは、全庁的にDXを推進する「DX推進チーム」にアカウントを付与のうえ、超過勤務命令の処理など、**庁内で利用するアプリの内製からスタートし、業務効率化の効果を確認。**
- その後、新型コロナウイルスのワクチン接種の受付をオンラインで可能にするアプリを内製するなど、住民向けサービスに係るアプリの開発を進めるとともに、**アカウントの付与対象をほぼ全職員に拡大し、全庁的な電子決裁も実現。**

スモールスタートの後、全職員へ迅速に展開

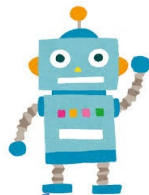
【令和3年度】

DX推進チームが庁内で利用するアプリを
内製し、運用開始

【令和4年度】

ほぼ全職員に運用を拡大し、住民向け
サービスを対象としたアプリも内製・運用

内製済のアプリケーション（一例）

超過勤務命令表・
郵便料金の差出票集計作業に要する
負担が大幅に軽減

電子決裁

決裁の効率化と
ペーパーレスの実現新型コロナウイルス
のワクチン接種予約予約受付事務の
負担が大幅に軽減

23 ローコード・ノーコードツールにより、順次アプリを内製し、全庁的な電子決裁も実現【福島県昭和村】

事業効果



- 超過勤務命令表については、90%程度デジタル化、郵便料金の差出票については、100%デジタル化しており、集計作業に要する負担が大幅に軽減。
- 65歳以下の新型コロナウイルスワクチン接種のオンライン予約の割合が72.2%となり、予約受付事務の負担が軽減。
- その他事務作業についても、デジタル化により業務効率が向上し、事務手続きやその後処理にかかる負担が低減。
- 電子決裁の実現により、複数人が資料の内容を同時に確認できるようになり、紙決裁時より、決裁・回覧が高速化。

コスト

※主にシステム導入等
に係るコストを記載

イニシャルコスト ※税抜

110千円

(内訳) ・チャットツール連携費用
(初期費用)

110千円

(備考)

ランニングコスト(1年あたり) ※税抜

986千円

(内訳) ・kintone利用料
・FormBridge利用料
・kViewer利用料
・チャットツール連携費用

535千円
160千円
171千円
120千円

(備考)



スケジュール

検討開始から導入までの期間 8か月

スケジュールの内訳

R3.1～3 ツール検討
R3.4～ 試験運用開始
R3.9～ 本運用開始



サービス提供事業者等

サービス
提供事業者

サイボウズ株式会社、トヨクモ株式会社、M-SOLUTIONS株式会社

サービス名

Kintone、FormBridge、kViewer、Smart at message for kintone

運用形態

パッケージ製品をクラウド環境で利用

その他
参画主体

—



担当部署 昭和村総務課企画創生係

電話 0241-42-7717

メール kikakusousei@showavill.jp

23 ローコード・ノーコードツールにより、順次アプリを内製し、全庁的な電子決裁も実現【福島県昭和村】



(総務省)

取組の経緯・きっかけを教えてください。

本村尾第6次振興計画において、デジタルトランスフォーメーションを推進する方針を示したことが大きな契機です。

本村は、これまでオンプレミスの環境によりメールなどの受信を行っているだけで、庶務関係のシステムについては導入していませんでした。**業務量調査を経て、定型的なものなど紙ベースの処理により業務負荷が高いものなども見受けられ、改善を図る必要性**を感じていました。また、コロナ禍もあり、いつ登庁できるからわからなくなるという状況の中で、**どこでも仕事ができる環境の構築も必要**でした。こうした背景から、**ローコード・ノーコードツールを活用した業務効率化に着手**することとしました。

はじめに、全庁的にDXを推進するDX推進チームにアカウントを付与し、決裁等の電子化を始めるとともに、当時、新型コロナウイルスのワクチン接種の受付などもオンラインで行いたいとの担当課からの要望を受けて、接種予約システムを構築するなど、**走りながら業務改善を進めていきました**。



(昭和村)

**工夫した点を教えてください。**

アプリの作成にあたっては、小さなことでは、なるべく入力させない(スクリプトで自動処理できる部分は自動で処理)ような作りとするとともに、**全庁展開を進める際は、これまでの紙ベースよりも優れている点をPR**しました。

運用していく中では、一定程度の制限（編集させない）を設けたことが不便にもつながることや、補助事業の案件などで電子決裁では認められないことなどの**課題が浮き彫りとなりましたが、自主開発というメリットを生かして、改良を重ねていきました**。

**他自治体の視察や照会があった時によく質問されることを教えてください。**

導入後の運用・開発に関するプログラミング等の知識について聞かれることが多くあります。「**もともと専門家ではないので、少しの努力で誰でもできますよ**」と回答しています。

**近況や今後の展望を教えてください。**

内部の事務処理について、対応する業務を増やすとともに、住民向けサービスについて、マイナンバーカードを活用した基本4情報の自動入力機能も活用しながら、**順次デジタル化を進めていく予定**です。

